

あります。まず著名な講師であること、いわゆるネームバリューがあって比較的講師料が安く、内容が聞く人に感銘を必ず与える人を選ぶのです。昼間でもVIPのグランドホールが500席以上満員になることで成功したと思っております。

ここ2年の講師は、一昨年は脚本家のジェームス三木先生であります。彼の講話の中では歴史小説を沢山書いておる。一つの脚本を作る時に秘書に本10冊ぐらい買わせ先ず読む、そして現地にのりこんでこの歴史が事実か、事実に近いか確認をとる。それから仕事にかかるということです。13年間、新潟が生んだ三波春夫さんの前座で歌手になった。フランク永井と同世代、対抗してジェームス三木として歌ったが、ヒット曲が13年間1回も出ず、やむを得ず貧乏のどん底から立ち上がって見事成功した。この人の話の中心は主役の条件としてトラブルがあった時に解決してきた人が歴史上では必ず偉くなっているとの話であった。

昨年は加賀美幸子さん。NHKの役員待遇の方、品のいい重厚なしゃべり方であることはご承知のとおりであります。加賀美先生は講演の中で「人生は旅である」毎日毎日変化があり旅しているようなものとおっしゃっておりました。

さて今年の講師は「その時、歴史は動いた」で有名な松平定知さんでありました。今から15年前1989年、朝7時のニュースを担当された。朝3時に起きてNHKに4時から5時に入り記事のチェック・選択する作業があり、毎日の睡眠時間が4時間、気を張っていても疲れはたまって、1日の内1時間の仮眠の時間が唯一の楽しみであった。ご案内の通り1990年、14年前には東西ドイツが統一された。1991年にはソビエトが崩壊し、冷戦構造が崩れて行った。藤澤周平氏の本を読むと楽になった。人には思い出したくない過去を忘れるのではなく、過去と一緒に生きてゆく覚悟を決め先にある小さな幸福をつかむようにする。歴史は人間ドラマである。歴史というと無機質な年号と歴史的事項の集積であると思っている人がいるかも知れないが、歴史は日々新たなものと解釈している。切り口を変えると全く違う顔が見えてくる。学校で習った常識と違う説が出てきた。例えば1582年(422年前)に起きた本能寺の変は明智光秀が単独犯とされているが、最近では単独犯ではなく黒幕があり、黒幕と綿密に打ち合わせして実行したと言うことが有力である。黒幕については、朝廷か足利義昭かに論争が分かれている。本能寺の変当日は、境内は静かだったという資料もあり、残っている歴史は勝者の側から見たものである。「そうではない見方もある」ということを伝えるのが我々の使命と松平定知氏は言っていました。根拠のない演出はないように、必ず現地に行き、いろいろな資料を見、聞き、日々新しい歴史を伝えることに取り組んでいるとのことでありました。

私たち北クラブは20周年を迎え、いよいよロータリーの成人式を迎える。新しい歴史をつくり、良きクラブの伝統をつくろうではありませんか。

ガバナー事務所の立ち上げはクラブの総力を結集し全員の参加とご協力を頂いて、新しいガバナー事務所としてRI2560地区56クラブのために一生懸命奉仕したいと思っております。

次に私自身のことも恐縮ながら含めて「やる気をだそう」「最近気づいたこと」を話してみたい。

ロータリーのガバナーの人のご経歴を拝見すると医者や弁護士という職業の方が多い。それもほと

んど現役を離れた方が多い。変化とともに経済界の中小企業の一匹狼が出ることも出てきたようである。何故私に指名があったのだろうか。1つは地区から藤田パストガバナー1人しかガバナーが出なかった。2つ目は私がここ4・5年暇をもてあまし、ロータリーに参加する機会が増えたこと。3つ目は能力は全くないが、40年以上連続出席者は20名程度しかおらず、私がその中でも若い方であること、68歳であることがロータリーでは若いことであろう。この3つが私にガバナーの銚先が向けられたのだらうと推定している。但し、私の所属する北ロータリークラブのベースがしっかりしており、優秀な方が非常に多いことが何よりの選定になったことであると信じておる。

私も長年人間をやり、少なからずリーダーシップをとる立場のことがある。例えば三条法人会という社団法人格団体2800名の一応まとめ役をしているが、毎日同じ活動を繰り返しているのに会員増強という活動がある。名前は組織増強委員会というのがあるが、私も毎回出席している。委員長は三条ロータリークラブの現会長の渡辺喜彦氏である。彼に関してはやる気とバイタリティーの固まりであるから、ほっといても大丈夫であるが、別の方がこの増強委員長になった。委員長のやる気を待っている間に1年が経ったが、結局増強どころかマイナスになったのである。口は達者で増強はみんなでやりましょうと言って何故か委員長のやる気をアテにするのである。

人間本来勤勉か、怠け者か。残念ながら怠け者である。本来人間というのは、楽しいことをして遊んでいたい動物だということである。人間以外の動物をみていると、彼らは餌の確保と生殖以外はブラブラしている。人間の場合は、他の動物ほど単純ではないが怠け者であり、心理学等の実験でも人間が最後にした行動はゴロ寝であったそうだ。従って少しのやる気で成功者になり得るのであるというのが、私の生き方のポイントである。従って、みんながやる気になり、その集団をつくっている会社が儲かっている会社であり、ボランティアの集団でないかと思っている。

勤勉な人間というのは、やらねばならぬことに着手しているのである。人間には習慣の体得がある。何にも考えずに続けていると体が馴染んでくる。することが苦痛でなくなるのである。そしてやり続けていると愉しくなる。そうなればシメタものである。

学習塾の宣伝文句に「やる気にさせます」というのがあった。親が一番望むことである。アメリカの鉄鋼王のカーネギーは「私の成功は何の仕掛けもない、ただやるべき事を目の前にして、自分の全力を尽くしただけだ」と言っている。日本で我々が受けた教育に二宮尊徳の話がある。勤勉さの象徴として銅像となっていたの間に私の心に定着し、私の人生のやる気は勤勉しかないのだと最近気づいたということである。「忙しいのは時間の使い方が下手なだけ」やたら忙しがってる人をよく見かけるが、時間がないのではなく、要領が悪いのである。その証拠に仕事のできる人、勉強のできる人はあまり忙しがったりしていないことがある。黙ってさっさとすませている。

忙しい人には二つのタイプがある。一つは、人に忙しがって自慢したい人である。かつて私もそうであった。大いに反省している。都合の良い日を教えてというと、手帳を取り出して2ヶ月先迄いっぱいだあと言う。忙しくない人間は値打ちが下がると思って、忙しがってみせているのである。もう一つのタイプは、時間管理が下手で本当に時間がない人である。こういう人は時間の使い方が下手